

# 尾張地区「拡大家庭教育推進協議会」

## I 概要

- 1 日時 令和元年8月29日(木) 午後1時00分～午後3時45分
- 2 会場 愛知県三の丸庁舎大会議室
- 3 参加者
  - ・協議会委員 17名
  - ・協議会委員以外の参加者 39名  
(子育てネットワーカー5名、子育て支援団体7名、行政関係者27名) 合計56名

## II 日程・内容

- 1 開会行事 午後1時00分～午後1時15分  
優良家庭教育推進組織等顕彰 (扶桑町立扶桑北中学校PTA)
- 2 扶桑北中学校PTA活動紹介 午後1時15分～午後1時30分

「学校支援を積極的に進めるPTA活動」  
～生徒の健やかな成長を支える活動を通して～



扶桑町立扶桑北学校PTA

生徒たちが豊かな心を持ち、健全に成長していく支援をするために、これからも、学校、家庭、地域が、確かな協力体制をもちながら活動を続けていきたいと思えます。



## 3 小牧市の家庭教育に関わる活動紹介【基調発表】

午後1時35分～午後1時55分

小牧市における子育て支援の取り組みについて

～妊娠期から子育て期にわたり  
切れ目ない支援を目指して～



小牧市を代表して、「子育て世代包括支援センター」の職員に発表していただいた。市内の様々な関係機関が密に連携をとりながら、小牧市全体で子育て支援に取り組む様子がしっかり伝わり、参加者からも「参考にしたい」という声が多く聞かれた。



#### 4 グループ協議・情報交換等 午後2時00分～午後3時40分

4分科会10グループの意見（抜粋）（数）はグループ数

##### 子育てネットワーカーの取組②

- ・ネットワーカーにもっと活躍の場を。
  - ・18才までの支援システムはできているが、さらに広い世代をつなぎたい。
  - ・産後健診時の待ち時間に、市の子育て17条の説明をしている。
  - ・テーマを決めてネットワーカーの研究会を行っている。
  - ・県生涯学習課の養成講座を受け、「親子ふれあいひろば」を開催している。…等
- ネットワーカーの取組が地域に根付き、親等と信頼関係を築いていくことが大切



##### 産前産後の親向けの取組②

- ・子育て支援機関の人員を増やしたい。
  - ・医療との連携が必要（産後うつ者の増加）
  - ・市内15の公民館を利用し、悩みを言えない、いえない人の居場所作りを行っている。
  - ・支援センターと生涯学習部局との連携が急務
  - ・赤ちゃん訪問やドアノッキング事業の実施
- 「民間だからできること」、「行政だからできること」それぞれを生かしながら連携していくことが大切



##### 子育て支援や施設③

- ・子供だけで行けない場所が多い（要保護者）。
  - ・支援施設でのネットワーカーとのふれあいの場があるとよい。
  - ・支援センターも大切だが、親や子供たちが通いやすいアットホームな近所の施設が必要
  - ・スマホでの情報収集や便利グッズなど、子育ての環境が変わってきている。
  - ・施設を建てるだけでなく、移動子育て支援など、人（支援者）が積極的に外に出て行く。
- 包括された施設（センター）も良いが、地域施設との連携も必要。まとめるのか？分けるのか？ケースバイケースなので議論が必要

##### その他の取組③

- ・児童館を外部委託したメリットとして、各種学習スペースの設置やサービスの向上がある。
  - ・放課後子ども教室等、支援事業のスタッフ不足が喫緊の課題
  - ・子育て世代の地域事業への参画を。
  - ・生涯学習センター等で90講座行っている。
  - ・「親の学びワークショップ」を開催している。
  - ・小学生対象の「子ども大学」は人気があり定着している。…等 家庭教育事業は多くある。
- そもそも、「家庭教育」とは？現代社会での「家庭教育」の重要性を社会で考えたい。

グループ協議・情報交換での発言ワード

そもそも…  
「連携」・「家庭教育とは？」

#### 5 閉会行事

午後3時40分～午後3時45分

### Ⅲ 課題や今後の取組について

前年度の反省を踏まえ、日程と内容を改善した。特に、グループ協議会については、より深まりのある話し合いを目指し、基調発表となる小牧市の発表内容に合った分科会テーマを設定した。グループ協議の前に、協議方法を具体的にスライドで示したことで、多くのグループでスムーズな話し合いができていた。アンケート結果からも、昨年よりも活発な協議がなされ、参加者の満足度の高さが伺われた。しかし、「テーマが広すぎてポイントがぼやけた話し合いになってしまった」等、一部の参加者から課題があがった。次年度は、「その他の取組」の分科会は設けず、より分科会のテーマを明瞭かつダイナミックなものにして深まりのある協議会にしたい。また、参加者数についても昨年度より減少しているので、多くの方に参加してもらえるような工夫をしていきたい。